

新潟国際情報大学  
中期計画Ⅱ（2020～2024年）

令和2（2020）年度報告書

令和3年5月



2019年度に作成された「新潟国際情報大学 中期計画Ⅱ（2020～2024年）」（以下、中期計画Ⅱと表記）の下、FD・中期計画推進委員会は本計画のPDCAを確実に実施するべく、進捗報告・検証の仕組みを構築した。中期計画Ⅱ初年度である本年度はFD・中期計画推進委員会から各課・各委員会に進捗報告を呼びかけ、中期計画Ⅱの実行を意識づけるとともに、本計画の進捗と課題点の確認を行った。

## 1. 地域社会のあり方を創造できる人材育成

### 1-1. カリキュラムポリシーやディプロマポリシーに則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学生の求める付加価値を最大化させる

2023年度のカリキュラム改定へ向け、活動のポイントは順調に着手されている。ただし、カリキュラム改定については、学部ごとの議論はもちろん全学的な議論も踏まえて本学のあり方を問い直す機会となるため、次年度以降の報告書では教務委員会、学務課だけでなく、学部としての検討・報告が必要となる。

「学習成果の保証」項目については、外部アセスメントテスト GPS-Academic を導入等すでに着手しているものもあるが、「学生ポートフォリオの整備」や「ルーブリックの導入」といった学習成果の可視化については、次年度以降の見直しを予定している。

### 1-2. 地域と一体化した教育の実践

学外との連携が必要となる取り組みであり、コロナ禍においては着手の困難な項目が多い。コロナ禍により中断した取り組みの継続性が維持されるよう再開へ向けた準備が必要である。

### 1-3. 総合的な人間力を涵養するための試み

2023年度のカリキュラム改定もにらみながら、今後丁寧に議論していく事項である。

### 1-4. 学生が主体的に参加する教育の実践

同じく、カリキュラム改定にも関わる内容であることから、今後の丁寧な議論を要する事項である。

## 2. 世界に通用し、世界に発信する研究と教育

### 2-1. SDGsの推進

初年度ながらSDGsの導入に向けて着実な活動が行われている。全学的な盛り上がりとなるよう関係組織に留まらない協力が求められる。

### 2-2. 留学制度の拡充、留学生受入強化、「留学のNUIS」

コロナ禍で今後の国際交流について見通しを立てづらい状況の中、多くの調査が実施されている。

### 2-3. 研究活動シーズの把握と公開、研究成果の開放、研究内容の発信、教育内容や知的財産の地域への還元

情報発信については、これまでの活動の延長上にあるものに加えて、新たにメディア掲載情報の発信を開始するなど、概ね順調に進められている。

## 2-4. 外部研究教育資金獲得の強化

例年実施している情報共有に加えて、新たに研修会の企画・実施するなど、順調に進められている。

## 3. 個性を伸ばす教育環境の整備—すべての学生を応援する大学

### 3-1. 快適で創造的な学習環境

学習環境については、全学生のノート PC の必携化とそれに伴う教室設計の検討など、PC 環境の整備が進んでいる。併せて図書館機能の拡充が図られおり、進捗は順調と言える。

リメディアル英語プログラムについては、英語担当教員を中心に今後の検討を要する。

### 3-2. すべての学生に行き届いた学生支援

実施済みの施策も含め、さらなる充実へ向けて新たな計画の立案が求められる。

### 3-3. 「やる気応援」のさまざまな仕組み（奨学金制度の充実）

本計画に記載された「活動のポイント」項目については概ね順調だが、新たな「活動のポイント」として奨学金制度の充実以外の目標設定についても検討を要する。

### 3-4. 卒業後の長期的キャリアを考える就職支援と共に、卒業後も集いやすい大学を目指す（卒業生とのネットワークの確立）

コロナ禍により活動が困難な中、環境づくりへ向けて小規模ながら活動に着手している。地元就職が多い本学の特長を生かして、さらなる拡充へ向けた計画の修正も検討する。

### 3-5. 全学が連携をしたカリキュラム支援

コロナ禍により活動が困難な中、小規模ながらキャリア教育活動が実施されている。報告の記載にあるように教員の意識や知識の格差があり、計画の通りゼミ担当教員へ向けた FD 活動等の企画が求められる。

## 4. 入学者選抜試験方法の見直しと募集活動の強化

### 4-1. 様々な学生の確保と多様な入学者選抜のための制度の検討

2020 年度大学入試改革に伴う変更があった。今後も高校との情報交換を密にしながら、活動の継続・改善が求められる。

### 4-2. 社会人受入の強化

これまでの活動の継続に加えて、リカレント教育の本格導入へ向けた新たな施策を検討する必要がある。

### 4-3. 大学のアドミッションポリシーとデータに基づいた募集活動の再構築

三つのポリシーについては、カリキュラム改定とも関連するテーマであり、学部及び全学での議論をふまえた検討が必要である。

募集活動については、これまでの活動を継続・改善する報告があり、活動としては順調に進んでいる。ただし、今後に向けては 18 歳人口の減少、県内大学新設に対する新たな施策も検討し、中期計画Ⅱに加えていく必要もある。

#### 4-4. 高校生及びその保護者などの目線に立った戦略的広報と安定的志願者の確保

4-3と同様、これまでの活動に加えて、18歳人口の減少、県内大学新設に応じた本格的な対策の検討が必要である。

### 5. 持続可能で安定した大学経営

#### 5-1. ガバナンスの強化

「中期計画Ⅱ」の策定に併せ「新潟国際情報大学ガバナンスコード」を策定、学長の責務や権限、大学経営の基盤強化に向けた、役員の役割分担を明確化した。

三つのポリシーをはじめ、収支計算書等、法人に関する情報も自主的に公表し透明性の確保に努めている。

#### 5-2. 安定した財政基盤の構築

入学者定員(250人)を超過する310人程度の入学者を受け入れ、計画通り安定した学生納付金収入を確保している。事業活動収支の均衡を図るうえでも、学生納付金の見直しの検討も望まれるが、新型コロナウイルス感染症による経済的環境も踏まえ、今後の検討課題とする。

#### 【総括所見】

中期計画Ⅱ推進初年度ということもあり、順調に着手されているものが多数ある反面、検討に至っていない項目も存在する。特に今年度はコロナ禍ということもあり、検討や着手が困難な項目もあった。

また今回の報告では、今後の課題として調整が必要な項目もあることが確認できた。本計画を絵に描いた餅に終わらせることなく、地に足の着いた計画実行を実現するためにも、今回の進捗報告を基に、不足する項目、充実させる項目、実現困難な項目を精査し、今年度の活動につなげていくことが重要となる。

#### マスタープラン 総括評価

	マスタープラン	評価	備考
1	地域社会のあり方を創造できる人材育成	順調	
2	世界に通用し、世界に発信する研究と教育	順調	
3	個性を伸ばす教育環境の整備—すべての学生を応援する大学	概ね順調	計画の拡充が期待される
4	入学者選抜試験方法の見直しと募集活動の強化	概ね順調	計画の改善が必要
5	持続可能で安定した大学経営	概ね順調	

(備考) 評価欄は「順調」、「概ね順調」、「遅れている」の中から選択した。

その他補足があれば、備考欄に記入した。